

《基本理念》医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、その時代時代になしうる最良の医療を提供すること

2017. 3~4

TORANOMON
VOL. 157

とらのもん

URL : <http://www.toranomon.gr.jp>



日本医療機能評価機構



本院治験
公開講座

『肝がん治療の最新の話題』

日時：2017年3月11日（土）14：00～15：30

場所：本院 本館3階 講堂（入場無料）

講師：肝臓内科 部長 池田 健次

※ 上記の公開講座は、諸般の事情により、変更・延期・中止になることがございます。お電話・ホームページ等で開催の有無をご確認ください。

【本院 中央採血室からのお知らせ】

現在、中央採血室がたいへん混雑して御迷惑をおかけしております。

午後の2時以降が比較的空いています。主治医とご相談の上、可能な場合は午後の採血をお勧めいたします。

今月の特集

- 本院 治験公開講座
- 『肝がん治療の最新の話題』
- ワクチン接種外来（成人）のご案内
- JMIP・J-H獲得しました
- 連携医療機関のご紹介
- ここにクリニック
- 中西成元先生（元 副院長）より
- ハイ！お答えします
- ～睡眠について～



『 ～桜～ 風光る 』

肝がん治療の最新の話

肝臓内科 部長 池田 健次

肝がん（肝細胞癌）は、わが国ではがん死亡の上位（男性では第4位、女性では第6位）を占めるメジャーな悪性腫瘍ですが、その発生原因がある程度分かっているがんの一つです。日本では、肝がんの約60%がC型肝炎ウイルス、約15%がB型肝炎ウイルスの持続感染が原因で、その他には飲酒（アルコール性肝障害）や脂肪肝などが原因になります。肝がんのもう一つの特徴は、原因がはっきりした肝臓に発生することによって、手術などで肝がんを取り除いても、再び新しい肝がんが発生（再発）することが多いという点です。

肝がんになりやすい人は、このようにあらかじめ予想がつくので、肝機能やエコー検査などで定期的なチェックを受けている人も多いです。さまざまな経過から肝がんが診断された人は、肝機能（肝臓の予備能力）、がんの大きさ、がんの個数などから、外科的手術、内科的なラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法、抗がん剤内服などの治療が選ばれ、それぞれの治療にさまざまな進歩がみられています。

内科的に肝がんを「焼く」治療としてラジオ波焼灼療法がありますが、2013年からはバイポーラの機器が使用可能となり、腫瘍に触れないで複数の電極針を結節周囲に配置して焼灼することができるようになりました。このラジオ波治療では、大型肝がん焼灼・肝がん播種防止・再発率低減などをめざす工夫が可能になりました。

肝がんが肝臓内で多発してしまったいわゆる中期進行肝がんに対しては、肝動脈化学塞栓療法（TACE）が行われます。これは、肝がんを栄養している動脈に抗がん剤を動脈注射したり、塞栓物質により血流を途絶させたりして、腫瘍を壊死に陥らせようとするものです。2012年ころからは、マイクロバルーンカテーテルによるバルーン閉塞下肝動脈化学塞栓療法が行われるようになり、TACEの効果が高まりました。2014年からは塞栓物質としてビーズ製剤が使用可能となり、TACE治療の選択肢が増えました。抗がん剤としてどれを使用するかを選択に加えて、個々の腫瘍により対してこれら治療手技をどのように使い分けるかが大きな話題になってきました。

肝臓外に転移したり、肝臓内を流れる門脈を閉塞させたりするような進行肝がんに対しては、持続動注化学療法や分子標的薬内服による治療が行われます。内服抗がん剤としてはソラフェニブのみ

肝臓内科 部長

池田 健次 昭和53年卒



<専門分野>

肝がんの早期診断と内科的治療、
慢性肝疾患よりの発癌予防治療、
慢性肝炎に対するインターフェロン治療

<資格・所属学会等>

- 日本内科学会 総合内科専門医・指導医
- 日本消化器病学会 評議員・消化器病専門医・指導医
- 日本肝臓学会 評議員・肝臓専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- 日本癌治療学会 臨床試験登録医

が2009年より使用されてきましたが、2017年からは第2番目の分子標的薬としてレゴラフェニブが認可される予定です。

肝がん罹患する人は徐々に高齢化しており、さまざまな全身の合併症（肝臓以外の病気）のため外科切除やラジオ波焼灼療法による治療が困難な人では、放射線治療（粒子線・定位放射線）が有用であることが認識され、徐々に適用範囲が大きくなってきています。

最近の最も大きな話題は、C型肝炎ウイルスを排除するための内服抗ウイルス薬の認可です。2014年9月にダクラタスビル+アスナプレビルの2剤併用治療が使用可能となって以後、ソホスブビル+リバビリン、ソホスブビル+レジパスビル、オムビタスビル+パリタプレビル+リトナビル、エルバスビル+グラゾプレビルなどが相次いで認可されました。副作用の比較的少ないこの内服治療は、肝機能が良好で、肝がんの根治治療が行えた人に行えますが、貧血やウイルスの耐性状態（効きにくいウイルス）、腎障害、心疾患、現在内服中の薬の種類などによっては行えないこともあります。肝がん治療のあと、C型肝炎ウイルスを除去することができれば、今後の肝がん再発確率が減ることが期待されますが、一部の患者さんでは抗ウイルス治療中や直後に肝がんの急速再発・悪性再発をすることも知られていて、注意が必要です。

ワクチン接種外来（成人）のご案内

臨床感染症科 荒岡秀樹

ほとんどの肝がん治療にかかわっている薬や器械は、治験（臨床試験）を経て認可に至っています。最近の肝がん治療の進歩を、これらの治験の成果を踏まえて知っていただきたいと思います。

…詳しくは公開講座へ… 2017年3月の公開講座

日時：3月11日（土）14時～15時30分
場所：虎の門病院本院 本館3階講堂
概要：『肝がん治療の最新の話』
講師：肝臓内科 池田 健次 部長

虎の門病院では定期的に一般の方向けの公開講座を開催しています。

どなたでも（虎の門病院を受診していない方でも）ご参加いただけます。

講師は虎の門病院所属の医師が担当し、講演後には質問もお受けいたします。



申込み不要・入場無料、
皆さまのご参加をお待ちしております。

虎の門病院 公開講座

検索



公開講座はDVD化しています。



DVDは本館8階にある患者図書室で
1泊2日でレンタル出来ます。
図書室内でご覧になることもできます。
（イヤホンをご持参ください）。

講座当日にお越しになれない方、
過去のあの回をもう1度見たいという方、
ぜひDVDをご活用ください！



平成26年10月より「ワクチン接種外来（成人）」を開設しております。これは、主に「高齢者肺炎球菌ワクチン」（ニューモバックス）が、予防接種法に基づく定期予防接種に位置づけられたことに伴うものです。このワクチンの接種によって肺炎球菌による肺炎の頻度や死亡率を減らすことができたという報告があり、効果が期待されています。対象者には、自治体から予防接種予診票が送付されますので、「ワクチン接種外来（成人）」を電話でご予約ください。予約日には、予診票をお持ちの上ご来院ください。当院かかりつけの主治医がいいらっしゃる方は、まずその外来でご相談いただくことも可能です。

また、肺炎球菌ワクチンにはニューモバックス以外にもプレベナーというものがあります。プレベナーの接種にも対応しておりますので、どちらを接種する方がよいのかのご相談にも応じます。

自治体から予防接種予診票が送付されていない方でも、「ワクチン接種外来（成人）」はご利用いただけますので、ご安心ください。

肺炎球菌ワクチン以外にもワクチンの種類は多数存在します。ワクチンで予防できるもの、重症化を予防できるものについては接種していただくことをお勧めいたします。例えば、妊婦さんが風疹に罹患した場合には、出生児に多大な影響が及ぶリスクが高まることが知られています。これから妊娠を希望される女性の方は、過去に風疹ワクチンを確実に接種されていることをご確認ください。

以下に「ワクチン接種外来（成人）」で対応可能な主なワクチンを記載いたします。ここに記載されていないワクチンをご希望の方は、まずは直接お電話でお問い合わせください。また、各ワクチンの在庫にも限りがありますので、まずはご希望のワクチンがあるか電話で内科外来までご確認ください。

現在、「ワクチン接種外来（成人）」は第2・4・5火曜日の午後に予約を入れていただくことができますが、これらの曜日に来院が困難な方は、臨床感染症科外来でも対応しております。

【対応可能なワクチン】

■肺炎球菌（ニューモバックス）、肺炎球菌（プレベナー）、水痘（みずぼうそう、帯状疱疹）、ムンプス（おたふくかぜ）、インフルエンザウイルス、A型肝炎・B型肝炎、日本脳炎、インフルエンザ菌タイプb（ヒブワクチン）

■麻疹（はしか）・風疹・麻疹風疹混合（MR）

※2017年2月現在、麻疹ワクチンが不足しています。

麻疹、麻疹風疹混合ワクチンをご希望の場合は、あらかじめ接種希望日以前に余裕を持ってご相談ください。風疹ワクチンは対応可能です。

■破傷風・百日咳・ジフテリア

※混合ワクチンもあります。



虎の門病院は2017年1月、2つの認証制度を取得いたしました！

認証されたのは虎の門病院本院です。これから外国人患者さんの増加が想定されるため、本院が基本理念として掲げている「医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、その時代時代になしうる最良の医療を提供すること」を胸に、整備を進めております。

JMIP 認証取得

2016年12月6日と7日にJMIP訪問調査を受け、2017年1月18日に認証されました。



JMIPは、外国人が安心・安全で国際的に高い評価を得ている日本の医療サービスを楽しむことができる体制構築を目的にしており、「受入対応」「患者サービス」「医療提供の運営」「組織体制と管理」「改善に向けた取り組み」からなる5つの機能別分類から評価をしています。

2017年1月時点で、全国で19の医療機関が認証されています。虎の門病院は**18番目**（都内で**3番目**）の認証獲得となりました。

Q. JMIPは何の略称ですか？

A. 一般財団法人 日本医療教育財団 外国人患者受入れ医療機関認証制度
Japan Medical Service Accreditation for International Patientsの略称です。

Q. JMIPとはどういう制度ですか？

A. 国内の医療機関に対し、多言語による診療案内や、異文化・宗教に配慮した対応など、外国人患者の受入れに資する体制を第三者的に評価します。それを通じ、医療を必要とするすべての人に、安心・安全な医療サービスを提供できる体制づくりを支援する、2011年に厚生労働省が実施した事業を基盤として策定された制度です。

（JMIPサイト）<http://jmip.jme.or.jp/index.php>

< 当院が行っている国際化：整備状況 >

- ◆ 外国人患者対応部署の設置：医療連携部（国際支援）
- ◆ 主要院内文書の順次翻訳化
- ◆ ホームページのグローバルサイト構築
- ◆ タブレット通訳機の導入
- ◆ 電話通訳・企業派遣通訳との契約
- ◆ 院内サインの英語表記化
- ◆ 新病院国際メディカルセンター検討開始
- ◆ 国際都市機能の強化（オリンピック選定病院）
 - ・国際水準の医療サービスを提供する施設整備
 - ・国内外の医療従事者を育成する研究・研修機能を整備





外国人患者さんに提供する医療サービスが国際水準に達していることを保証するために、今回はJMI PとJIHを取得いたしました。当院は国内外問わず、患者さんに対してより良い医療の提供ができるよう、これからも医療安全と医療の質の向上を目指して参ります。

JIH 認証取得

2016年11月1日にJIH訪問調査を受け、2017年1月31日に認証されました。



JIHを運営しているMEJ (Medical Excellence JAPAN) は、医療の互恵的国際協力の理念の下、官民連携による日本の医療の国際展開を推進するため、日本及び海外の人々の健康・福祉の向上に貢献することを目的として、経済産業省の支援を得て2009年に設立されました。

2017年1月時点で、全国で28の医療機関が認証されています。虎の門病院は13番目（都内で7番目）の認証獲得となりました。

Q. JIHは何の略称ですか？

A. 日本国際病院 Japan International Hospitals の略称です。

Q. JIH（日本国際病院）とは何ですか？

A. 医療渡航支援企業を通じて渡航受診者を円滑に受入れ、通常と同じように医療サービスを提供することができる病院のことです。

海外にいる渡航受診者は、日本国際病院の中から病状に応じて最適な医療サービスを提供する病院を選び、渡航受診に必要なサービスを提供する医療渡航支援企業を通じて来日前に受診予約を行い、通訳が付添って通院し、安心して受診することができます。

(JIHサイト) <http://www.japanhospitalssearch.org/>

▼ホームページのグローバルサイト構築



グローバルサイト（多言語対応）

Please check this HP!



<http://www.toranomon.gr.jp/global/>

院長 ご挨拶

当院は、2014年11月に鷺沼駅から徒歩5分の場所を開院しました。当院では、風邪や生活習慣病などの一般内科から消化器専門領域疾患まで幅広く診療を行ってまいります。また、病気の予防を大切に考え、胃と大腸の内視鏡検査に力を入れております。大腸癌については、ポリープ切除が大腸癌予防につながります。

これまでに、20年以上にわたり上部・下部消化管内視鏡検査を行ってきました。今までの内視鏡検査の経験を生かし、「苦痛なく、安全な胃・大腸内視鏡検査」を行い、的確な診断と治療を患者さんに提供していきたいと思っています。近隣地域の皆さまが安心でき、気軽に相談ができる地域の「かかりつけ医」を目指し、努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●ドクター紹介

院長 小西 一男 (こにし かずお)



＜経歴＞

1992年 : 昭和大学医学部卒業
昭和大学医学部第二内科入局
1994年 4月: 国立がん研究センター東病院
消化器内科 臨床研修
2004年 4月: 国立がん研究センター研究所
国内留学
2004年11月: ミネソタ大学M.D.アンダーソン
癌センター(MDACC)留学

2006年 7月: 昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門 講師
2014年11月: こにしクリニック開設 院長
昭和大学医学部内科学講座消化器内科学部門 非常勤講師
2015年 4月: 昭和大学横浜市北部病院消化器センター 非常勤講師

＜専門医・認定医＞

日本消化器病学会専門医・評議員
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定医
日本癌治療認定医機構認定医・暫定教育医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医/日本医師会認定産業医

【診療時間】 ご予約お待ちしております。

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~12:00	●	●	●	/	●	◎
15:30~18:30	●	●	●	/	●	/

※ 受付時間は診療終了時間の30分前までとなります。

※ ◎土曜午前…9:00~12:30

胃内視鏡検査日 診療日午前(月・火・水・金・土)

大腸内視鏡検査日 診療日午後(月・火・水・金・土)

【休診日】 木曜・日曜・祝日

【アクセス】 東急田園都市線 鷺沼駅より 徒歩5分
駐車場4台 ご用意あり



こにしクリニック

〒216-0004

神奈川県川崎市宮前区鷺沼1-3-13

鷺沼東急アパート1F

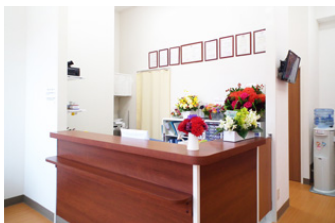
電話 044-888-0015

URL <http://konishi-gastro.jp/index.html>

【診療科目】

一般内科・消化器内科・胃腸内科

【院内写真】



(受付)



(待合室)



(診察室)



(内視鏡検査器)



虎ノ門の虎、その後

虎の門病院 元副院長

シミュレーションラボセンター顧問 中西 成元

なにかと不安が漂う今日の世界情勢だが、東京都も例外ではない。もとはといえば石原元都知事時代に決定した築地市場移転、猪瀬知事時代のオリンピック招致、今になって議論が再燃し、小池知事が対応中である。そんななかで虎の門病院も新しい病院建物の建築中だ。新病院の基本方針には国際化と災害対応が加わっているが、実はこれも舛添前都知事が都政で打ち出した方針と関連している。その新病院は二年後に完成する。病院周辺も再開発が目白押しで、建設・土木関連は活況をきたしており、全国から作業員が集められ、それでも人手不足であるらしい。

筆者は十五年ほど前に病院の広報誌に虎ノ門周縁つれづれを三年ほど連載したことがあった。早いものでそれから干支がひとまわりしているが、当時とあまり変わらない風情もあれば、大きく変わったものの、今まさに変わろうとしているものもある。

変わらないものの代表が地下鉄虎ノ門駅の6番出口の脇にある小さな虎の像だ。以前も書いたとおり一等地にあるのにあまりにも小さくて目立たず、相変わらず知る人は少ないままだ。もう一つ変わっていないものにこんぴらさん（金刀比羅宮）がある。敷地内に琴平タワーが建ってからですら十年以上経っている。しかし毎月十日に行われている祭礼も年々寂しくなってきたのは否めない。

最も変わったのは虎の門病院の前の道路である。以前は片側二車線の小さな側道で、街路樹にはコブシが植わっており毎年二月末に白い花をつけていたが、三年前に見違えるほど広い道になった。この道は病院前からJTビル前を経て外濠通りにかけて少し上り坂になっていて、江戸時代より葵坂と呼ばれていた。坂上には徳川家の家紋の二葉葵が茂っていてそちらは葵が丘といった。町名も溜池葵町、のちに赤坂葵町と称した由緒ある土地なのだが、いまや坂は削られてほとんど目立たず、町の名前もとうの昔に変わってしまった。

二年前に完成したこの新しい道路は環状第2号線と呼ばれる。2020年東京オリンピックの選手村や主要競技場とオリンピックスタジアムをつないでいるためオリンピック道路とも呼ばれているが、そもそもこの道路は終戦直後の1946年に計画されていた。東京都は戦後復興のため100メートル幅の道路建設を計画し、神田佐久間町から新橋までの区間を都市計画の一部として決定した。それをGHQが虎の門のアメリカ大使館から竹芝桟橋までの軍用道路として要求し、いつしか計画道路はマッカーサー道路と称されるようになった。その後道路幅は50メートルと縮小されたが用地収用がままならず、着工されないまま五十年以上が過ぎた。道路予定地は建築制限がかかったままで、中高層ビルの谷間に低

層住宅が連なる不思議な光景が近年まで見られた。病院前にもごく最近まで二階建ての簡易建築の健診センターがあったことを覚えていらっしゃる方も多いと思うが、このような事情があったのだ。

ところが90年代になり、立体道路制度を使って道路の上に超高層ビルを建て、道路予定地の住民をそこに吸収するという方法が考え出されると、土地収用の難問が解決して道路計画が一気に進んだ。霞が関ビル以来都内には超高層ビルが次々と建ってはきたが、三年前に突如眼前に現れた虎ノ門ヒルズの威容には度肝を抜かれた。東京オリンピックの開催も三年後に迫り、環状第2号線はオリンピック道路として活躍すると同時に、虎の門から新橋にかけてはシャゼリゼ通りのような雰囲気のある道路にしたいとのことだ。

周辺には他にも進行中の再開発プロジェクトが複数ある。今年8月完成予定の赤坂一丁目再開発で目見えする超高層建築赤坂インターシティAIRには、10月に虎の門病院の人間ドックおよび病院OBによるメディカルモールが入居する予定だ。高層虎の門病院と超高層複合業務棟ビルおよびアネックス棟からなる虎ノ門二丁目地区再開発と、ひと足先に始まったお隣りホテルオークラの建て替えはまさに工事中。さらに森ビルを中心にした虎ノ門ヒルズ国際新都心構想に基づき、地下鉄虎ノ門新駅を中心にした都市づくりが一気に加速することだろう。

これらのプロジェクトによって巨大なオフィス群、多くの住居、多数の商業店舗、広い緑地空間、超高級ホテル、超先進医療を提供する病院などを備えた複合都市が国の中枢に近接した場所に現れる。既存の大使館、美術館、建物・施設、道路や地下鉄などの交通インフラとも一体化した未来都市だ。すべてのプロジェクトはオリンピックに照準を合わせており、数年後には虎ノ門は異次元の町になる。

虎ノ門の虎は今日も交差点のかたわらに小さく歯を剥き出して座っている。台座から眺めるその目には、大きく変わりつつある虎ノ門周辺の景色はどのように映っているのだろうか。



赤坂インターシティAIR
外観イメージ図



新病院 南東側
外観イメージ図

ハイ！お答えします

日頃、ふと疑問を持ちながら過ごしていることや、つい聞きそびれてしまったことなどありませんか？
3月18日は春の睡眠の日です。正しい睡眠習慣を知ってもらうために、日本睡眠学会がこの日を定めました。今回は睡眠に関する質問に睡眠センターの富田先生がお答えします。

Question

睡眠時間は何時間とればいいの？

Answer

最新のデータによれば日本人の平日の平均睡眠時間は7時間15分だそうです。ナポレオンは1日3時間しか眠らなかったことで有名ですが、ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんは11時間寝ていたそうです。睡眠時間は人それぞれですが、「昼間の活動に支障がなければOK」と考えてください。そして睡眠は量だけではなく、質も大事です。質のよい睡眠のために、夜更かしをせずに規則正しく目覚め、朝は日の光を浴びて朝食をとり、日中は適度な運動を心がけましょう。

Question

寝酒はよくないのでしょうか？

Answer

夜寝付けなからとお酒に頼る方は少なくありません。お酒を飲むと眠くなりますが、深い眠りを妨げ、却って睡眠の質を悪くします。眠れないと言って早くから床に入る人もいますが、これも実は間違った習慣です。眠くなってから床に入り、起きる時間を変えないようにしてリズムを作り、昼寝をする場合も30分以内としておきましょう。長く眠れなくても「昼間の活動に支障がなければOK」です。

Question

いびきがうるさいのは病気なのでしょうか？

Answer

全てのいびきが病気ではありませんが、あまりに大きいいびきをかいていたり、いびきの直前に呼吸が止まっていたりする場合は、睡眠時無呼吸症候群（SAS）という病気かもしれません。昼間眠くなることはありませんか。SASのせいでよい睡眠がとれていないのかもしれません。アプノモニターはご自宅でできる簡単な検査です。気軽にご相談ください。



肺機能検査を担当する生理検査技師のみなさん。アプノモニター検査を受ける方には私たちが説明します。



当院で貸出を行っているアプノモニター検査。小さなカバンに入れて持ち帰っていただけます。



2017年1月より検査機器を一新しました。

睡眠センターのみなさん。
(前列左から3番目が富田先生)



人間ドックに関するお問い合わせ

虎の門病院付属

健康管理センター・画像診断センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-3 虎ノ門清和ビル

TEL 03-3560-7777 (平日11:00~16:30)

ホームページ <http://www.toranomon-dock.jp/>

★ 2017年10月に赤坂インターシティAIR 5階に移転します！

当院でセカンドオピニオンの提供を受けたい方へ

他の病院におかかりの患者さんで、ご自分の病状や治療方針について現在おかかりの医師以外の意見をお求めの方へ対し、当院各科専門医（部長・医長クラス）による特別相談をお受けしております。（完全予約制、紹介状必要）

（料金）30分：21,600円（延長15分毎：10,800円追加）

（担当）本院医療連携部 03-3588-1111 内線4106

分院医療連携部 044-877-5111 内線5141